

# 調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月 28日

瀬戸市議会議長 様

議員名 水野 良一



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

## 記

期 日	令和 元年 11月 6日から 11月 8日まで (2泊3日)	
調査先・研修名	第81回 全国都市問題会議	
会場名 (会場所在地)	霧島市国分体育館 (鹿児島県霧島市国分清水 309)	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	テーマ:「防災とコミュニティ」  近年、全国的に多種多様な災害が発生している中、防災設備の整備、都市計画、自治体間連携など、全国の自治体にはさまざまな重要課題が残されている。今回の会議では、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域コミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を参考に、首長、学識経験者や研究成果に基づいた、講演と報告、パネルディスカッションから本市の課題解決に向け考えを深める。	
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要	依頼先 (名称)
同行者名	山田治義・富田宗一・ <del>水澤勝</del> ・三木雪実・長江公夫 戸田由久・宮藺伸仁・柴田利勝・西本潤・高島淳・朝井賢次 本人含む 11名	

※行程表を添付してください。

# 行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道/往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
元 年 11 月 6 日	藤が丘駅	バス	片道	中部国際空港		km	1,600	円	円
	中部国際空港	飛行機	片道	鹿児島空港	661	km	33,140	円	円
	鹿児島空港	バス	片道	鹿児島中央駅		km	1,300	円	円
						km		円	円
						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
鹿児島東急REIホテル					090-256-0109		8,300 円		
備考欄									

44,340 円

日付	出発駅	交通手段	片道/往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
元 年 11 月 7 日	鹿児島中央駅	JR	片道	国分駅	33.7	km	660	円	円
	国分駅	JR	片道	鹿児島中央駅	33.7	km	660	円	円
						km		円	円
						km		円	円
						km		円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
鹿児島東急REIホテル					099-256-0109		8,300 円		
備考欄									

小計 9,620 円

日付	出発駅	交通手段	片道/往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
元 年 11 月 8 日	鹿児島中央駅	JR	片道	国分駅	33.7	km	660	円	円
	国分駅前	バス	片道	鹿児島空港		km	400	円	円
	鹿児島空港	飛行機	片道	中部国際空港	661	km	32,040	円	円
	中部国際空港	私鉄	片道	金山駅	65.7	km	830	円	360 円
	金山駅	JR	片道	大曾根駅 經由 瀬戸市役所前駅	21.3	km	610	円	円
宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									

パック等による割引など

小計 34,900 円

24,460 円

宿泊費 合計

交通費 合計

16,600 円

72,260 円


申請額合計  
(宿泊費+交通費-割引代)

64,400 円

# 調査・研修等報告書

令和2年4月30日

瀬戸市議会議長 様

議員名 水野 良一 

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

## 記

期 日	令和元年11月6日から11月8日まで(2泊3日)
調査先・研修名	第81回 全国都市問題会議
会場名(会場所在地)	霧島市国分体育館
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	<p>① 基調講演 「鹿児島県の歴史から学ぶ防災の知恵」 志学館大学人間関係学部教授 原口 泉 氏</p> <p>② パネルディスカッション テーマ:「防災とコミュニティ」 コーディネーター 追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長教授 田中 正人 氏</p> <p>パネリスト 専修大学人間科学部教授 大矢根 淳 氏 学地域強靱化研究センター特命准教授 磯打千雅子 氏 霧島市国分野口地区自治公民館長 持留 憲治 氏 静岡県三島市長 豊岡 武士 氏 和歌山市海南市長 神出 正巳 氏</p> <p>近年、全国的に多種多様な災害が発生している中、防災設備の整備、都市計画、自治体間連携など、全国の自治体にはさまざまな重要課題が残されている。今回の会議では、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域コミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を参考に、首長、学識経験者や研究成果に基づいた、講演と報告、パネルディスカッションから本市の課題解決に向け考えを深める。</p>

① 基調講演

「鹿児島県の歴史から学ぶ防災の知恵」

- ・歴史は、後世の人々に災害の恐ろしさや、対策の施し方を伝える大切な資料である。「歴史から学ぶ」ものは大変大きい。地域ごとに防災対策を考えるにあたり、過去に起こった災害をしっかりと検証し、災害は自分の身近なところで起こりうることを前提に社会の仕組みを築き上げておくことが重要である。

② パネルディスカッション

「防災とコミュニティ」

- ・防災に関して、すべてを行政任せにしないことや、新しく地域ならではの防災システムの整備（共助・近助）が必要である。
- ・河川の土手は市民等が行う花見などによって踏み固められた結果、強靱な防災対策につながっている。
- ・防災倉庫の資機材は「誰が使うのか」実際に使う者が分かるようにしておくことが肝心。地域に資機材が設置されていなければ「あるものを使う」という考え方を浸透させる。
- ・地域の担い手はその範囲内に居住する者、或いは事業者であり、地方自治体はそれを支援する伴走者である。
- ・地域防災リーダー養成講座により、地域の住民からリーダーを生み出し、育て安全安心を推進させていく。
- ・霧島市では、東日本大震災など各地で起こった災害を契機に、地域の防災研修会を行って危機管理意識を高めている。自主防災会等に情報収集を依頼し、危険なブロック塀撤去促進事業を行ってきた。構造物も安全安心のため新しい基準で考え直す必要がある。

## 調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

近年では大規模な地震災害や、異常気象による風水害が発生し、地域住民の防災意識が高まっている。「自分の命は自分で守る」を前提に行政に頼りきらない防災対策が急務であると感じる。自分に何がどれだけ出来るのかをしっかりと把握し、日常生活を送らなくてはならないと強く思う。

その意味ではここ数年、本市で行われている防災訓練の内容が、少しずつ変わってきた。多くの地域住民が一丸となって防災訓練に参加し取り組む様子は、個々の危機管理が少しずつ高まって来たといえるのではないかと感じた。今回の視察先である霧島市では活火山による大規模噴火や河川の氾濫を想定した地域防災に特化された内容であったため、瀬戸市の場合と比べて対応がかなり違うが、土砂災害・河川氾濫に関しては同じ考え方が出来るのではないかと感じた。

本市は水野川、瀬戸川、山口川という大きな三本の川に挟まれた地域である。そこで考えられる災害は、過去に市内で起きた自然災害の経緯をしっかりと把握し、歴史に基づいた防災対策を講じておくことが何よりも重要である。「災害は忘れたころにやってくる」「備えあれば憂いなし」なのである。そのために希薄になりつつある各連区自治会・町内会・組など、近助の組織体制の必要性を強調したい。

その他、会場内でコンビニエンスストアの地域店舗が軽自動車の移動販売車を展示し、実際に食品などの販売がされ大いに参考になった。この会議に参加した者は順番に整列しながら買い物の体験を行い「並ぶ」際のストレスなどを感じたと思う。普段から店舗の無い地域では移動販売車による生活スタイルが定着しているようである。実はこれも防災対策として十分活用されるものであると感じた。

現代における防災対策の基本は、「昔ながら」をいかに取り入れるかで、デジタル化された時代にアナログの大切さを再度認識すべきである。本市でも十分検証の上、今すぐ取り組むことが可能である。